

● 業績ハイライト

1 損益の状況

業務純益は、預金利息や経費が増加しましたが、貸出金の平均残高の増加や利回りの上昇、有価証券利息の増加などにより、前年同期比31億円(12.6%)増加し、283億円となりました。

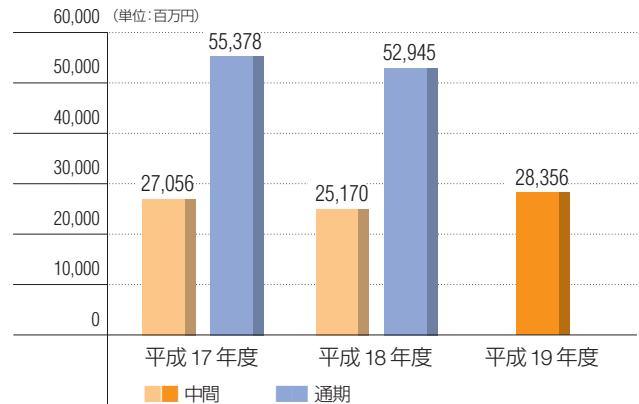
また、本業の収益力を示すコア業務純益*も同じく前年同期比20億円(8.4%)増加し、265億円となりました。

経常利益は、不良債権処理額が増加しましたが、業務純益の増加に加え、株式売却益が増加したことなどにより前年同期比25億円(11.2%)増加し、252億円となりました。

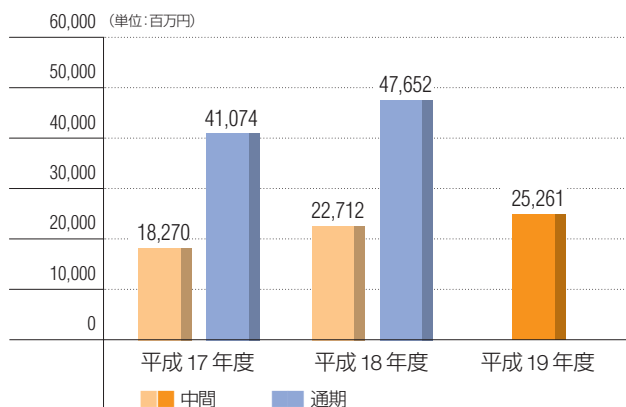
中間純利益は、会計基準変更に伴う引当金の増加などから、前年同期比4億円(2.7%)減少し、145億円となりました。

※コア業務純益は、業務純益から国債等債券損益と一般貸倒引当金繰入額を除いたものです。

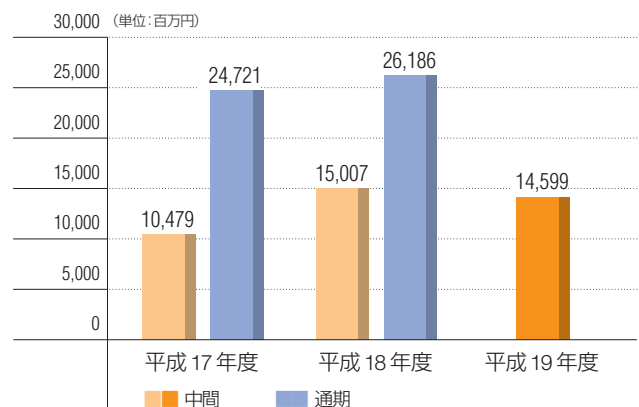
業務純益



経常利益



純利益



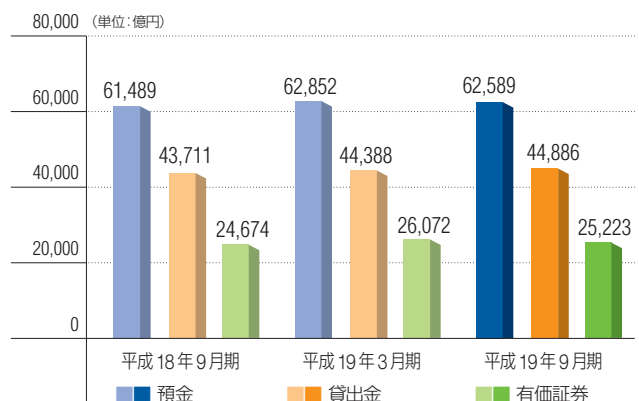
2 預貸金・有価証券の状況

預金は、個人預金を中心に前年同期比1,099億円増加し、6兆2,589億円となりました。

貸出金は、法人向け貸出が増加したほか、住宅ローンも堅調に推移したことから、前年同期比1,174億円増加し、4兆4,886億円となりました。

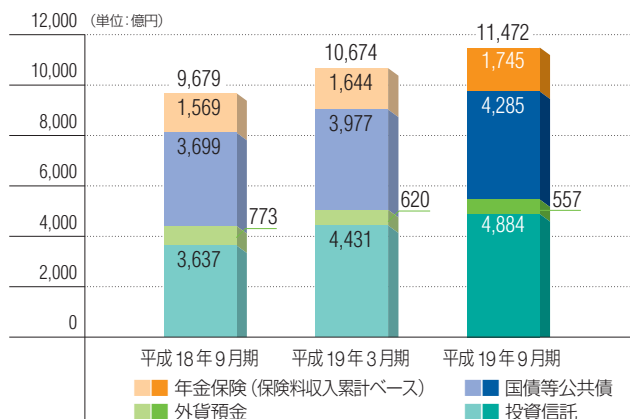
有価証券は、前年同期比549億円増加し、2兆5,223億円となりました。

預金・貸出金・有価証券



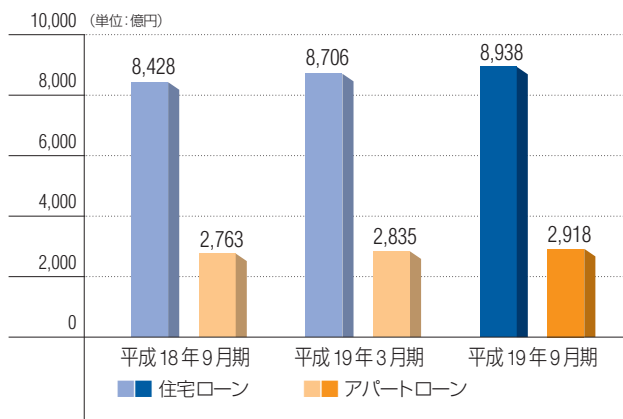
預り資産は、投資信託が大幅に増加したほか、個人向け国債、年金保険についても増加し、預り資産全体の残高は前年同期比 1,793 億円 (18.5%) 増加の 1 兆 1,472 億円となりました。

預り資産



住宅ローンは、引続き堅調に推移し前年同期比 510 億円 (5.7%) 増加の 8,938 億円となりました。

住宅関連ローン



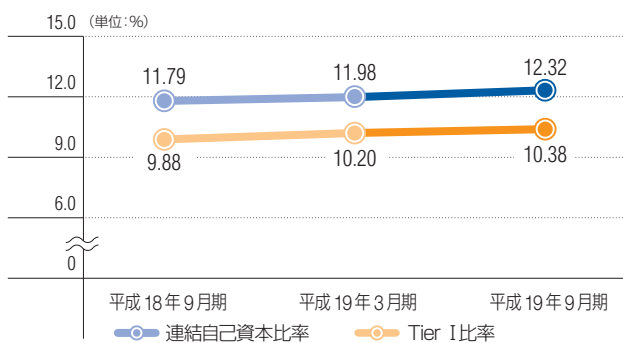
3 自己資本比率の状況

自己資本比率は、銀行経営の健全性を判断する重要な指標のひとつです。連結子会社を含めた連結ベースでは 12.32%、当行単体でも 12.20% と引き続き高い水準を確保しています。

なお、国内基準適用行に求められる水準は 4% 以上となっています。

※ Tier I：自己資本のなかで基本的な項目と位置づけられるものであり、資本金・法定準備金・利益剰余金などから構成されます。

連結自己資本比率 (国内基準) の推移



4 連結決算の状況

当行の連結子会社は9社となります。

損益につきましては、経常収益は前中間期比170億円増加し、1,087億円となりました。経常費用は、前中間期比144億円増加し、825億円となりました。以上により、経常利益は261億円、中間純利益は151億円となりました。

当中間期の連結キャッシュ・フローにつきましては、債券貸借取引受入担保金の減少等を主因に営業

活動によるキャッシュ・フローは139億円減少しましたが、有価証券関係で投資活動によるキャッシュ・フローは114億円増加しました。また、自己株式の取得や配当金の支払い等により財務活動によるキャッシュ・フローは65億円減少しました。

以上の結果、当中間期末の現金及び現金同等物の残高は90億円減少して、1,073億円となりました。